

## “入院後の受診に関して・・・”

現在、人工関節の入院は、手術前日に入院して頂き、術後3週のリハビリ入院を基本としています。若く筋力のある方や早期から歩行能力を得ることが出来て、早期の退院を希望されている場合には術後2週程度での退院も可能です。

高齢者などで、筋力低下の著しい方などは術後4週程度のリハビリを行なう場合もあります。

退院後は、希望者には退院後1ヶ月程度、週に1回程度の外来リハビリを行なっています。

レントゲンチェックに関しては、術後3、6ヶ月、1年、1年半、2年を過ぎたら、年1回の外来通院をお願いしています。早期の異常を確認する為にも、定期検診は重要になります。



## センター長の海外探訪記 “パレスチナの巻”

私は、2000年と2004年に短期間ですがパレスチナ自治区に医療ボランティアに行きました。最近もイスラエル軍による空爆が行われニュースになっていたガザ地区の病院でも1ヶ月ちかく働いていました。

パレスチナは、ガザ地区(地中海に面した静かな田舎)と、ヨルダン川西岸地区(エルサレム、ベツレヘムなど聖書にでてくる街や死海があるエリア)の2つに分かれており、現在は両方がイスラエルの自治区となっています。

ニュースでは暗いニュースばかりですが、地中海に沈む夕陽はとても美しいですし、エルサレムは宗教に詳しくなくても祈りの場として荘厳で歴史ある魅力的な街です。死海は何もしなくても本当にプカプカ浮いて楽しく、多くのミネラルを含む湖底の泥は美容品として有名です。

皆さんにも是非観光で訪れて欲しい場所ですので、平和な時代が早く来ることを心から願ってやみません。



- 人工関節に特化した「人工関節センター」と乳がん診療に特化した「プレストセンター」を開設しており、より高度な専門医療を提供しております。
- 関節外来：岡 史朗 月・火・水曜午前9時から12時
- 関節外来：相原雅治 水・木・金曜午前9時から12時
- スポーツ外来：橋 優太 金曜 午後4時半から7時
- 理学療法士：岡本浩明・樋口慧・小山晴菜
- 受付時間：平日午前9時～11時半、午後4時半～6時半

(水曜夜診休診)

土曜午前9時～11時半 (祝日休診)

相原病院・人工関節センター tel. 072-723-9000  
 箕面市牧落3-4-30 fax. 072-723-9052  
 ホームページ: <http://www.aiharahp.com/>

この新聞の名称「ぶらな」とは、仏教の元言語となるサンスクリット語で“空気”や“清浄な気”を示す言葉です。我々は、関節や脊椎疾患に負けずに積極的に人生を楽しんでいきたい！と考えている“強い気を持っている方々”を応援する為、色々な形で情報を発信していこうと考えています。

こんな情報が欲しい、こんな事をして欲しいなど希望がありましたら、お気軽にファックスでお伝えください。

# 「ぶらな」

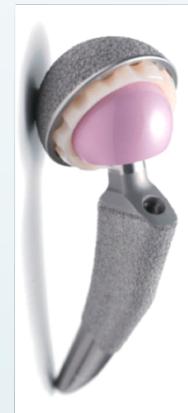
“人生を積極的に生きる人を応援する医療情報誌”

相原病院・人工関節センター新聞  
 第12号  
 2014年12月吉日

相原病院は箕面市立病院よりも歴史が長く、今年で40周年を迎えました。その間、地元根付いたアットホームな病院として地域医療に貢献してまいりました。建て替えと共に、人工関節センターとプレストセンターを立ち上げ専門医療に特化して5年になりましたが、アットホームな雰囲気を持しつつ、高度な医療を提供し続けることを常に心がけて診療にあたっております。



## “股関節の人工関節ってどんな手術ですか？”



人工関節手術は日本で年間に膝が約7万5千例、股関節で約5万例が行われています。今回は人工股関節の手術を簡単に説明します。

股関節の軟骨が削れると、歩いたり立ち上がる時に、むき出しの骨同士がゴリゴリと削り合う状態になるため、早期は階段昇降や長時間歩いた後に痛みが出ますが、進行すると寝ていても激しい痛みで目が醒めることもあります。悪い方の脚が少し短く、ガニ股になる傾向があり、杖を要し、跛行(びっこ)が目立ってきます。

多くは日本人に多いと言われている臼蓋形成不全症といって、股関節の骨盤側の体重の受け皿にあたる「臼蓋」の面積が生まれつき狭いため、年齢よりも早くに関節の軟骨に負担がかかり、軟骨が削れてきます。更に大腿骨の付け根の丸い骨が歪んで、関節の動きが悪くなるので、脚を曲げたり開きにくくなります。

手術で悪くなった関節の表面を取り去り、骨盤にカップ状の金属(主にチタン)を入れ込み、その内張りに軟骨の代わりになる特殊なポリエチレンやセラミックなど嵌め込み、大腿骨側には軸(ステム)と言いい、主にチタン)を差し込み、丸い金属かセラミックのボールを取り付ける手術が人工股関節置換術です。

以前に比べて長持ちしますし、手術の創も小さくなり、リハビリが早く、脱臼などの合併症も減り、入院期間は短くなっています。

手術に対する不安は皆さん持たれるのが当然です。痛みで困っていて手術を悩んでいらっしゃる方は、ご気軽に一度受診をなさってみてください。



## 近隣病院の人工関節手術数 (平成24年度)

病院名	症例数
相原病院(H25年度)	179
(H24年度)	172
(H23年度)	142
箕面市立病院	32
市立豊中病院	97
市立池田病院	95
国立刀根山病院	9
宝塚市立病院	36
大阪医科大学病院	109
済生会千里病院	85
北野病院	114
北大阪警察病院	36
済生会吹田病院	101



医療法人 啓明会  
**相原病院**  
 Provides the best medical service

## “人工関節センターの5年間を振り返り・・・”

センター長 相原 雅治

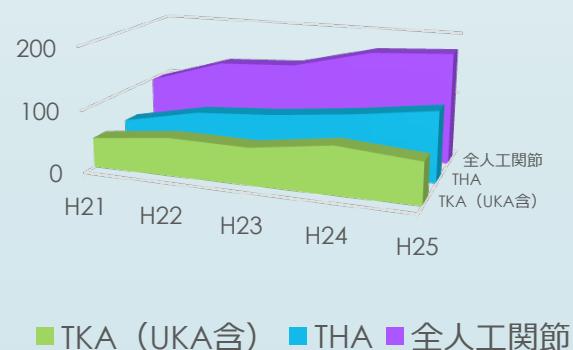
啓明会 相原病院は今年で創立40年を迎えました。過去の写真を調べると、40年前のこの辺りは今からでは想像の付かないくらい田んぼだらけでした。今は周囲の家や建物も増え続け、時代の移り変わりを感じずにはられません。

40年前の人工関節の手術は、大病院でも稀に行われていた手術で、私が医師になった20年前くらいから基幹病院で一般的な手術になり始めました。その頃で日本全体の人工股関節と膝関節合わせて3万件少々です。2013年は約13万件と言われていいますので、この20年で4倍以上に増加しています。その一番の理由は高齢者の増加が勿論ありますが、それより人工関節の材質やデザインを改良し続け、手術・リハビリなど治療する側も経験と実績を重ねたこと。そして、手術を受けた患者さん自身がそのメリットを感じて下さり、以前は「手術したら歩けなくなる・・・」と云うデマが流れていましたが、街中やプールなどで脚を痛そうに引き摺っている人に手術を受けた患者さん自身が「そんなに痛そうなら、早く人工関節の手術をしてもらったら楽になりますよ！！」と声掛けして下さる最近の患者さん自身が手術数増加の隠れた立役者だと思っています。

北摂には人工関節センターとして専門医療を行っていた病院数は少なく、その中でしっかり足固めをした医療を行い5年前と比べて手術件数は増え、北は舞鶴、南は南淡路や和歌山からも患者さんに来ていただける病院に育ちました。今年は読売新聞「病院の実力-人工関節」欄の全国版と関西版に名前が載り、身が引き締まる思いです。更なる5年も、人生を積極的に生きていく方々のお力になれる様に、切磋琢磨し最新の治療技術を皆さんに提供できる様に努力をし続けていく所存です。



人工関節センター 手術件数



## 「初めて日本股関節学会に参加しました」

リハビリ科 理学療法士 小山 晴菜

初めまして！今年4月から、相原病院リハビリテーション科で働いている小山晴菜です。学生時代の研修で相原病院にお世話になりました。病院の雰囲気や理学療法士の方々の仕事場面を見させて頂き、「このような病院で私も働けたらいいなあ〜」と思っていたところに就職の話が舞い降りてきました。そして、大学を頑張っ卒業、国家試験もなんとか合格し、26年4月に晴れて相原病院に就職することができました。就職して半年が経過し仕事にも慣れてくると思えば…分からないことが多すぎて、毎日壁にぶち当たっています。しかし、毎日が新鮮で毎日が勉強で、先輩理学療法士2人のもと、時には優しく、時には厳しく指導して頂き、充実した毎日を送っております。これからも、よりよい理学療法士になれるように努めていきます。

さて、話はかわり10月末に東京で行われた日本股関節学会に参加しました。相原病院からは医師1名、看護師1名、理学療法士2名 計4名が発表しました。普段は白衣姿しか見ないため、先生方の発表している姿はとても新鮮でした。

学会では多くの発表があり、いろんな視点から物事を考えることができ、いい刺激となりとても勉強になりました。学会で学んだことを皆さんへのリハビリテーションに生かせるようにしていきたいです。そして、来年は私自身が発表者になれるように頑張りたいと思いました。

学会後は美味しいご飯を頂き、大好きな東京バナナも買えて幸せでした。東京は初めてで、一番ビックリしたことは深夜でもたくさんの方が駅付近に集まっていることでした。ちょうどハロウィンの日だったからかも知れませんがね…。

学会を通していろんな都市に行ける事も楽しみに日々頑張りたいと思います。

